

# 城南の風

編集・発行  
城南地区まちづくり  
協議会総務部  
〒669-2461  
丹波篠山市小枕 131  
コミュニティセンタ  
ー城南会館内

「あぶないよ!」「ゆっくいと!」

生活環境部会で看板を作りました。

のどかな丹波篠山市ですが、日々の暮らしの中には「あぶない!」と思うことがあります。「村の中を歩いていると、後ろからものすごいスピードで車が走ってきてびっくりした」「田んぼの近くを歩いていたら深い溝があつて、こどもが近づいたらあぶないと思った」という声を聴くことがあります。

そこで、まちづくり協議会の生活環境部会では、危険防止のための看板を作成して、城南地区の「あぶないな」と思う場所に設置しました。看板をご覧になったら、「あぶないで」「気を付けような」と互いに声を掛け合ってもらえればと思います。

「まだ、危険な所もあるで」という方もいらっしゃるかもしれません。そんな時は、自治会の役員に伝えてください。本年度の分の看板は配付し終えていますのですぐに看板を設置することはできませんが、近所の方々に知らせて、お互いに注意し合ったり、できる対応を考えたりして、みんなで住みよい安全な地域にしていきたいと思っています。よろしくお願いします。



# 「下原の奇跡」に学ぶ

12月3日(土)に市の自治会長会研修会として「丹波篠山市防災と福祉の連携促進フォーラム」がありました。

地震や水害、台風など、災害はいつどこで起きるかわかりません。特に、お年寄りや障がいのある方などの避難については、家族だけに任せるのではなく市や自治会、福祉関係の方が一緒になって考え、協力して対応する必要があります。市では、少しずつですが、一人ひとりの避難計画を作ったり、避難訓練を行ったりして取り組みの輪を広げています。

その災害時の避難について、2018年に起こった西日本豪雨災害で大きな被害を受けながら「犠牲者がゼロ」だった岡山県総社市下原地区の川田一馬さん(下原・砂古自主防災組織副本部長)の話を聞きました。

岡山県総社市では、川が氾濫し、死者が9人、負傷者38人、家の全壊や大規模半壊などが1810件という被害を受けました。中でも下原地区は豪雨に加えて、近くのアルミ工場が爆発し物が飛んできたり火災が発生したりするという二重の災害を受けました。しかし、犠牲者は一人も出ませんでした。当時、新聞やテレビなどで「下原の奇跡」とも呼ばれました。なぜ、下原地区では犠牲者がゼロだったのでしょうか。

下原地区は、世帯数が110件(当時)で65歳以上が40パーセントを超える少子高齢化の地区です。災害発生時には、要配慮者30人を含む350人全員が避難しました。

川田さんは、下原地区で一人の犠牲者も出なかったのは、過去に大きな災害がありそのことを忘れずに教訓としていたことや、東日本大震災以後、毎年、『本番を想定した訓練』をしてきたこと、行政や福祉関係者とふだんから顔が見える関係ができていたことが大きな要因だと言われました。『避難行動の基礎』ができていたとも言われました。

本番を想定した訓練とは、『災害は時と場所を選ばない』という前提に立っての訓練です。休みの日の防災訓練だけでなく、「夜に災害が起こった時の訓練」や「平日の訓練」



「雨の中での訓練」など、いろいろな場合を想定した訓練です。ふだんからの取り組みの大切さと人と人とのつながりが大事だということを改めて教えていただきました。城南地区でも、昨年、市や関係機関と一緒に防災訓練をしました。今後も、各自治会で災害について話し合ったり、訓練をしたり準備をしたりしていきたいと考えています。よろしくお願いします。



## 祝 150周年

城南小学校が創立150周年を迎え、その記念イベントの一つとして航空写真を撮影し、クリアファイルを作成されました。

これからも地域の学校として長く歩んでほしいと願っています。

